



インディアカ

会場地 : 佐用町 (旧 こうづき 上月町)

競技紹介

インディアカは、羽根のついた柔らかいボールを片手で打ち合うバレーボールタイプの競技です。ボールに羽根がついていることでスピードが緩和され、初心者でも扱いやすく、コントロールしだいで多彩なチームプレーが楽しめます。

インディアカのルーツは、ブラジルの伝承ゲーム「ペテカ」で、1930年代末、ドイツの体育教師カールハンス・クロンが用具を改良しインディアカゲームを考案しました。

日本には1968年に紹介され、レクリエーションスポーツのニーズの高まりにあわせて全国に普及しました。そして1989年からは、全国スポーツ・レクリエーション祭の正式種目となっています。

【全国スポーツ・レクリエーション祭】: スポーツ・レクリエーション活動を楽しみ、交流を深めることを目的として、毎年開催されているイベント。

競技方法

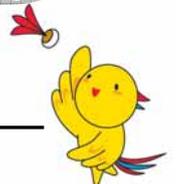
競技するコートは、バドミントン用のコート（長さ 13.40m、幅 6.10m）と同じです。

ネットの高さは、女子 2.00m、男子 2.15m、男女混合 2.15m。（シニア女子は 1.85m、シニア男女混合は 2.00m）

競技用具は羽根付きボール（インディアカ）でクッションの入った平らなボールの部分を素手で打ちます。（打つことによりボールの部分が相手側に向けて飛ぶように作られています。）

競技は1チーム4人による対抗戦で行います。バレーボールと同じく2つのチームが、ネットをはさんでインディアカを素手で打ち合い、3回以内（同じ人が続けて打つことはできません）で相手コートに打ち、インディアカがそこで相手側に打ち返される前にコートの床に落ちれば得点となります。

21点を1セットとして3セットマッチで行い、2セット先取したチームが勝ちとなります。なお、得点はラリーポイント制です。



競技場の概要

【会 場】

上月体育館“ホタルドーム”

佐用町上月のシンボルでもある“ホタル”をイメージして整備され、本大会で使用するアリーナは 1485 m² (45m × 33m) でバレーボールやバドミントン等、幅広く利用できます。

佐用町立上月中学校体育館

平成 16 年度に校舎と一緒に新築され、面積は 858 m² (33m × 26m) で真新しい体育館です。また、スポーツクラブ 21 こうづきの拠点施設です。



佐用町上月ではインディアカが盛んに行われています。佐用町上月インディアカ協会を中心にビスラカップ・インディアカ大会をはじめ、年間6回の大会が開催されており、最もポピュラーなニュースポーツとして定着しています。